

棚倉町後期高齢者医療に関する条例

反対討論



鈴木政夫 議員

後期高齢者医療制度は、高齢者を前期と後期に分ける不当な差別的制度である。

制度の根拠法となる高齢者の医療の確保に関する法律では、「健康の保持」は削られ、その代わりに「医療費の適正化」が入った。露骨に医療費削減を目的にしている。

また、複数の医療機関へかからないようにしたり、長期入院をさせない体制をとったり、終末期は過剰医療させない確約を取るなど、差別医療を行おうとしている。文字どおり後期高齢者を差別する医療そのものである。

現在国会では、野党四党が、この制度の廃止法案を衆議院に提出している。私は、廃止法案を成立させる世論をさらに広げる決意をし反対討論とする。

賛成討論



角田悦男 議員

今回の条例制定は、国の法律や県広域連合の条例との整合性を考えれば制定しなければならぬ条例である。

また、条例内容は、本町被保険者の利便性と事務の効率化などに配慮し、福島県広域連合の原則に基づき定められたので、この条例がない場合は町条例で規定する事務ができなくなり、行政サービスの低下が予想される。

このような点を踏まえ、賛成討論とする。

平成二十年度棚倉町一般会計予算

反対討論



鈴木政夫 議員

平成二十年度の一般会計予算は、四十八億八千二百万円だが、最大の特徴は、町税が二十億百万円となり、地方交付税が減額されているところである。

住民税の控除額は所得税の控除額より少なく、しかも税率が引き上げられ、同じ所得の場合これまでより増税となり、町民の怒りが渦巻いている。町民の暮らしと福祉を守り、この町をどうつくっていくかが問われていると思う。

賛成討論



松本英一 議員

子育て支援、学校耐震改修対策など、町の重点施策が盛り込まれているのははじめ、後期高齢者医療制度など、必

こうした課題に取り組む目標として棚倉町振興計画が作成されているが、目標にはほぼ遠いものとなっている。

妊婦健診への公費負担の拡大、預かり保育の内容改善など評価できるものが予算化されているが、子供医療費の年齢引き上げなど課題は残されたままだ。

この町は住みやすい、この町は希望が持てる、そういう町づくりを目指していかなければならないが、本予算案には、そうした思いが感じられない。

よって、平成二十年度一般会計予算案に反対し、討論とする。

要な制度への対応がなされている予算である。

限られた財源を有効に配分しようとしているこの予算を適正なものと考え、賛成討論とする。

平成二十年度棚倉町後期高齢者医療特別会計予算

反対討論



鈴木政夫 議員

「棚倉町後期高齢者医療に関する条例」のときと同じ要旨で反対する。

賛成討論



藤田智之 議員

提案された予算内容は、歳入では、県広域連合が保険料設定時に用いた内容を採択しており、低所得者に対し、保険料軽減制度である一般会計からの後期高齢者医療保険基金安定繰入金も計上されている。

歳出予算は、町が徴収した保険料に、低所得者に対する保険料軽減分が加えられた額を県広域連合納付金として、さらに、町の事務経費についても適宜計上されているので、問題が生じる内容ではないと考え、賛成討論とする。